

## “素直に感じた心の声”～科学する心を育てる～

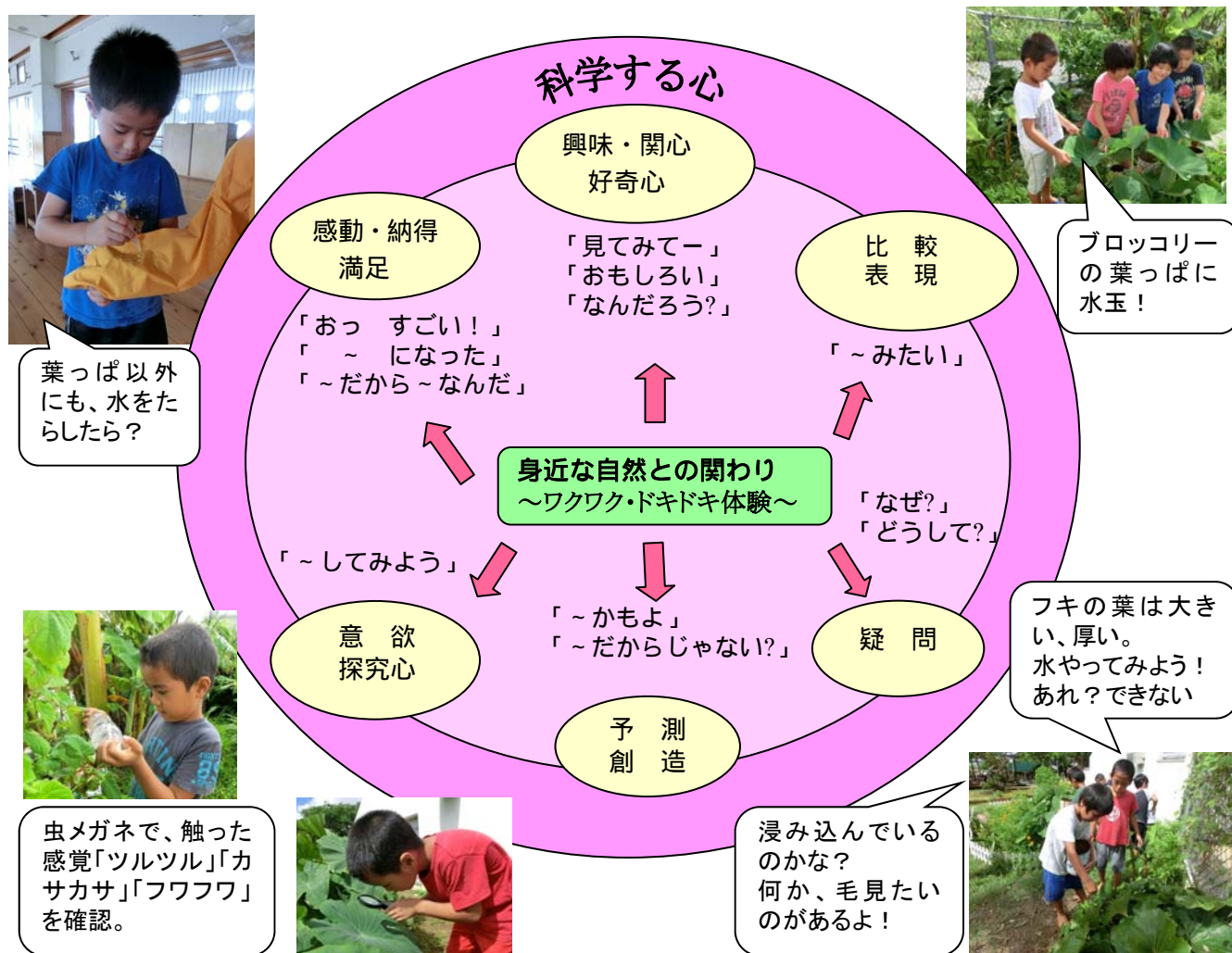
社会福祉法人あおぞら福祉会 あおぞら保育園（沖縄県南城市）

[ 5 歳児 ]

子どもたちは自然と遊ぶ中で「あれー、不思議だな?」「見てみて！おもしろい」「何でだろう?」など、たくさんの‘不思議’に出会い好奇心を膨らませています。こうした子どもの“素直に感じる心”の声に「ホントだ!」と共感だけに留まっていたことを反省し、日頃の保育の中で見過してきたかもしれない“子どもの素直に感じる心(つぶやき)”をしっかりと大切に受け止め、向き合っていくことにしました。

### 「科学する心」とは...

子どもたちは、身近な自然との関わりの中で“なぜ?”“どうして?”などのたくさんの不思議に出会い疑問を持ちます。そして、“やってみよう”“おもしろい”と好奇心が膨らみ、“見てみてー”“ホントだー”と仲間が加わり共感する姿があります。その“素直に感じた心の声”こそが「科学する心」の始まりと捉え、子ども心に寄り添って“なぜ?”“どうして?”の答えを見付ける手助けをしながら好奇心や創造性を育てていくことが「科学する心」を育てる…につながるのではないかと考えます。



### みどころ

「科学する心」は、子どもが思い思いに遊びや生活を展開する日常の中で生まれています。それは、「子どもの“素直に感じる心”を大切にすることにある」と考えて、「共感」することに留まらず「子どもの心に寄り添って“なぜ?”“どうして?”の答えを見付ける手助けをしながら好奇心や創造性を育てていく」と、一歩踏み込んで育てる保育を考えています。すると、ブロッコリーの葉の水玉に好奇心をもち、フキの葉で「不思議?」を感じ、身近なものや意欲的な関わりにより、探求が深まっている姿が見えてきました。「科学する心」が育まれる体験の積み重ねを捉えることに結び付いています。